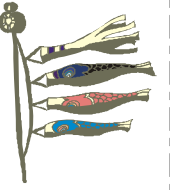


中公みはら芸備かわら版



今年度初めての体験講座開催 マイビデオ講座



4月13日(土)今までになく好天に恵まれましたが、桜の花の7分は散ってなんとなく命の短さに寂しさを感じる思いでした。鮮やかなピンクの花を咲かせる桃、緑の葉っぱの中にひときわ鮮明に咲く椿に心も癒されながら、残っている桜にカメラをむけ、個性豊かな感性で撮影に没頭されている姿は、またひときわ好天の中にとけ込んでいました。心に残る撮影ができたでしょうか？

女性2人の参加でモデルを務め、めったにない経験に楽しさも倍増しました。又来年も良い撮影を期待し棲真寺を跡にしました。

生涯学習は 笑顔の宝宝箱

5月から主催講座が始まります。又開く笑顔が館内に戻ってきますね。楽しみです。

体験講座紹介 新しい風・生涯学習

原文を読もう「源氏物語」
(楽しく学ぼう雅の世界)
全2回
日程 1回目 5月13日(月)
2回目 6月 3日(月)
場所 資料室(2F)
時間 13:30~15:30
定員 大人 20人
参加費 100円

香りでココロすっきり体操
日程 5月15日(水)
場所 第2・第3講座室
時間 13:30~15:30
定員 大人 20人
参加費 100円
締切り 5月13日(月)

初めてのウクレレ
全2回
日程 1回目5月20日(月)
2回目6月10日(月)
場所 資料室(2F)
時間 13:30~15:30
定員 大人 20人
参加費 100円
締切り 5月16日(木)

生活習慣病予防料理教室
(肥満)
日程 5月24日(金)
場所 調理室(3F)
時間 10:00~13:00
定員 大人 20人
参加費 600円
締切り 5月17日(金)

古布でリメイク実用小物
(ティッシュボックスカバー)
日程 6月5日(水)
場所 第2研修室(1F)
時間 13:30~15:30
定員 大人 20人
参加費 500円
締切り 5月27日(月)



お知らせコーナ (親子科学工作開催)
中央公民館では、平成23年度より広島商船高等専門学校の先生を初め、生徒の皆さんのお力をお借りし、定期的に親子科学工作を楽しむ講座を設けています。直近では、6月に連鎖型木製輪ゴム銃を作ります。親子の講座を通してコミュニケーションを図っていただければ幸いです。6月の広報にて紹介しますのでぜひご来館ください。

新任の挨拶
何かをしたい！趣味を持たないと！と思ったら公民館へ GO...
桜の時期は、異動の時期であり富永相談員の後任として勤務いたします。よろしくお願ひします。「何か趣味を持たないと！」「仲間と共通の話題を持ちたい！」「時間の取れるようになった！」と考えておられたら、公民館へ！！
市内の公民館・コミセンでは趣味、教養、実技等の講座を開催しております。何かを見つけることが出来るかも。気軽に相談してください。

- 6月の体験講座紹介**
- ①5月と6月・原文を読もう「源氏物語」
 - ②古布でリメイク実用小物
 - ③初めてのウクレレ
 - ④アンズでジャム作り
 - ⑤ ガラス工芸
 - ⑥親子科学工作 (連鎖型木製輪ゴム銃を作ろう)
- お楽しみに！！

三原市中央公民館
三原市円一町2丁目3番1号
講座の申込先 中央公民館生涯学習課
TEL 0848-64-2137

新連載企画

「海・山・空」夢ひらくまち

みはら地名由来学

前回まで「ぶらり三原寺巡り」を連載してまいりましたが、今月号から、私たちの住んでいる地域の名前の由来について一緒に考えてみようと思画いたしました。

ちょっと考えてみよう

三原の移り変わりを！

昭和 11 年頃



筆影山からの市街地

現在



三原の大昔の海岸線は、現在よりずっと陸地に入り込んでいたと思われます。農耕生活が始まると、水や農地に恵まれた土地に移り住むようになり、古墳等により知ることが出来ます。本格的な発展は、室町時代頃からで、小早川隆景(1533~1597)は、本郷新高山城から三原浦に城を移し(1567)、その周辺に多くの人々を住ませ(現東町)城下町が造られていったのであります。

江戸時代になると、沼田川流域の干拓が進められ、頼兼新開や宮沖新開などで、米も生産も行うようになりました。

江戸時代の末期になると、宇都宮龍山が、港が必要であることを説いて、糸崎浜松に港が築かれ、今日の港の基が出来ました。

明治以降も干拓が進められ、皆実新開や円一新開などが造られていきました。山陽本線が開通すると、糸崎駅に操車場が置かれ、糸崎港は特別輸港に指定されました。

大正から昭和にかけて、海岸の埋立地に工場が進出し工業都市へと変っていったのです。

円一町【えんいちちょう】

丸の中に横一

三原の干拓が行われるようになったのは江戸初期からで、その後、明治、大正、昭和と続けられ、円一町付近は、明治十一(1878)年の干拓で、榎崎家の家紋が、「丸の中に横一」であったことから「えんいち」と呼ばれるようになりました。

昭和初期の円一町



宮沖町【みやおきちょう】

お宮の沖だから！

現在の宮浦・皆実・宮沖一帯は、元禄十三(1700)年に、百二十町歩余の

新開に開かれた土地であります。

西の宮(現在の三原八幡宮)の沖にあたることから宮沖新開と名付けられました。沼田川から用水を引き、綿などの栽培行われるようになりました。

干拓にまつわる、甚五郎松の言い伝えは有名で、現在、円一町には甚五郎神社があります。

昭和 18 年頃の宮沖町

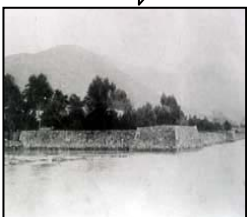


城町【しろまち】

三原城があつたから！

三原城、本丸そして二の丸、三の丸のあつた位置につくられた町です。明治二十七(1894)年6月に山陽本線の開通により町は分断されましたが、城を中心とした地名で、現在も当時の石垣が残されています。

明治 43 年頃の海から見た三原城



東町【ひがしまち】

三原城の東だから！

和久原(湧原)川の三角州上に、天正一〇(1582~83)年小早川隆景

によって開かれた城下町の東側の町です。現在の西町とで三原町と呼んでいました。今でも、寺院も多くあり城下町としての歴史を物語っています。

明治 40 年頃の東町



西町【にしまち】

三原城の西だから！

三原城の西側に出来た城下町で城をはさんで東町とともに三原町と呼んでいました。恵ヶ谷川にかかる中橋を中心に、東側を橋東、西側を橋西、南側を新町としました。この町にも小路が多く、今でもその光景が残っています。寺院が多くあり古い町並みが並んでいます。

昭和初期西の宮からの西町を望む



今月号から、「三原をもっと知ろう」ということで三原の歴史、地形や人々の暮らしなどから「地名」が付けられていることを、広島民俗学会理事 榎 博自先生の「みはらみてある記」一町名考&ふるさと歴史散歩を参考文献にさせていただきます。

写真は、三原市ホームページの歴史民族資料館より。皆さんのご意見をお聞かせください。